

新型コロナウイルス禍中における野外環境教育の実施例

Practical example of outdoor environmental education in Covid-19 pandemic

東海大教養, ○小栗 和也

Tokai Univ., ○Kazuya Oguri

E-mail: oguri@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

1. はじめに

近年、世界的な社会問題として環境問題が重要視されている。環境問題を考える場合は、個々の事象が重要であるだけでなく、事象ごとのつながりやシステムとしての位置付けが重要となる。大学などの高等教育機関での教育は、専門性を高める観点から、個別の事象についての教育が中心となるため、システムを意識した教育を行うためには、異なる分野に対する興味・関心が欠かせない。そのため、実体験を通じた意識付けが教育を実施する上で非常に有効である。

一方、2019 年末より世界的な感染が始まった COVID-19 により、一般講義も含めて教育活動に関してかなりの制約が必要な状況にある。そこで本講演では、2020 年 9 月に東海大学教養学部人間環境学科で実施した野外活動での体験に基づいた環境教育の実践例を紹介するとともに、新型コロナウイルス禍中における野外実習実施に向けた課題について話題提供する。

2. 東海大学教養学部人間環境学科における野外教育プログラム

2011 年 9 月に取りまとめられた日本学術会議 環境学会 環境思想・環境教育分科会の提言では、「大学・大学院等の高等教育における「環境、および、環境教育の研究と人材育成」、ならびに、学生らへの広汎な「環境教育の体系と体勢」の確立が急務である。その際、それぞれの地域の NPO 等、環境市民活動との連携協働による具体的な取組みや展開が最も重要であり、政府はそのための枠組みの構築や支援を進めるべきである。」と述べられている[1]。この指針に沿う形で東海大学教養学部人間環境学科の野外実習カリキュラムが企画・実施されてきた。

3.. 新型コロナウイルス禍中での知床における野外実習

2020 年 9 月に北海道・知床地域で実習を実施した。実施に際しては、訪問先等との事前連絡・緊急時における対応について、特に配慮を行った。また見学・実施を行うに当たり、従来とはことなり、学生による見学先の事前調査・資料作成に時間を掛けて、短時間でも効果的な学びにつながるよう工夫し、大学生自身の気付き・学びにつながる。これらの事例についても講演で取り上げ報告する。

また、プログラムに参加者した学生の感想・意見等についても併せて報告し、新型コロナウイルス禍中における野外実習プログラムの実施にあたる検討事項について、話題提供を行う。

参考文献

[1] 日本学術会議環境学会環境思想・環境教育分科会, 「高等教育における環境教育の充実にむけて」2011 年 9 月, p16.